とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都港区芝２丁目１２－１６
園名	アスク芝公園保育園

１．活動のテーマ

<テーマ>

外国

<テーマの設定理由>

国旗から様々な国がある事を知り、国の文化や言語へ興味関心を育てていくため。保育園の場所柄、さまざまな国の方に触れることが多く、子ども達が一層さまざまな文化に触れる事が出来るようにするため。

２．活動スケジュール

11 月から 3 月まで行い、月に 1 回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにした。その時点での子どもたちの興味関心をもとに問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにした。
11 月：「アメリカの国旗には何があるかな？」
12 月：「これはどこの国から来たものかな？」「どんな国があったかな？」「この国は、何が有名かな。」
1 月：「自己紹介を英語でしてみよう」
2 月：「どの国旗か分かるかな」「気になる国の有名なものを調べよう」
3 月：「今まで出てきた国旗を全部並べてみよう」

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

国旗の絵本、ぬりえ、国旗図鑑、地球儀、食べ物カード、国旗デザインの紙
日本と他国の国旗を見比べ、何が違うのか等を考えられるように設定した。
外国について、絵本や図鑑を使って調べられるようにしていった。

４．探究活動の実践

【3 歳児実施分】

問いを考える：

「アメリカの国旗には何があるかな？」「アメリカの国旗は何色だったかな？」「これはどっちの国から来たものかな？」「自分の好きなものを英語で言えるかな」「好きな国旗はあるかな」「どの国旗か分かるかな」

探究活動の様子：

　アメリカと日本の国旗は何が違うかを見比べ、グループで話し合い、発表していった。「アメリカはシマシマ模様」「星のマーク！」「日本は丸！」」など意見が出ていた。他にも様々な国の国旗を知り、色や形を学ぶことが出来ていた。後日、「アメリカの国旗は何色だったかな？」と問いかけ、思い出して色を塗っていった。前日の国旗を良く思い出しながら塗り絵を楽しんでいた。

「これはどっちの国から来たものかな？」と国旗カードを見せながら問いかけていった。自分たちが好きな、おにぎりやお寿司は日本発祥のものと分かり驚いていた。更にアメリカはハンバーガーやターキーの発祥地と分かり、喜んでいた。その後、スイスやアルゼンチンなど様々な国旗を見てイメージを膨らませてから実際に自分たちのオリジナル国旗を描いて表現した。様々な国の模様を知り、好きなものを取り入れながら、思い思いに国旗を作り表現を楽しむことが出来た。

「自分の好きな物を英語で言えるかな？」と問いかけられ、自分で考えた自己紹介を英語で発表した。恥ずかしがる児は保育者と一緒に発表した。好きなものだけではなく、出身地なども発言しようとする姿が見られた。また、「好きな国旗はあるかな」と問いかけると、国旗の絵本を見ながら、インドやイギリスなど様々な国旗に興味を持ち、色や形を見ていた。

「どの国旗か分かるかな」と問いかけると、少しずつ答えられるようになってきた。講師と一緒に国旗ゲームを行うと、国旗の模様やヒントを頼りに、自分で答えを導き出そうとしていた。

カナダに興味を持つ子どもが多く、有名なものなど調べようとする姿が見られた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

様々な国の国旗を知り、色や形を学ぶことができ、発表することが出来ていた。見たことや学んだことを自分なりに表現することも出来ており、一緒に振り返ることで興味も深まっていた。

国について、自分達で知れたことや興味を持った事を発表することで、自分で調べるという探求心が深まったように感じた。

「英語で話してみよう」という意欲が高まった様子が見られた子どもには、ゆっくりと英語で応えていく事で、興味が高まる様子が見られた。また、普段の生活の中で、国旗や国に関することを見つけたらみんなで共有できるように声を掛けることで、子ども達の関心は一層高まった。

【4 歳児実施分】

問いを考える：

「アメリカの国旗には何があるかな？」「アメリカの他にどんな国があるか？国旗はどんな模様や色をしているのかな？」「どんな国があったかな？」「自己紹介を英語で出来るかな」

探究活動の様子：

日本とアメリカの国旗を見比べ、何が違うのか等を考えられるようにした。実際に見た国旗の色と、講師から聞いた色を思い出しながら、アメリカの国旗の色を塗ることを楽しんでいた。またアメリカの国旗に星が何個あるのか数える姿も見られた。後日、「アメリカの他にどんな国があるかな？国旗はどんな模様や色をしているのかな？」と問いかけ、2 グループに分かれて、気になった国や興味がある国を調べたり、国旗の図鑑や地球儀を見たりして学びを深めた。その後、オリジナル国旗を製作した。オリジナルの国旗を描いた後「みてみて」と嬉しそうに他児や保育士に見せ、喜んでいた。「こんな国あるのかな。」「こんな国があったらいいな」と言っている姿が見られ、そこから似たような国旗があるのか調べてみようと活動が発展していった。

アメリカの他にカナダなどの国旗に触れ、その国の食べ物等にも興味を示していた。国旗の名前を当てるゲームでは、当てることが出来ると嬉しそうにする姿が見られた。

「自己紹介を英語でしてみよう」と講師が声掛けをすると、自分の出身地や好きなものを英語で発表し、関心を高めていた。

今まで学んだ国の国旗を使いゲームを行うと、国名だけでなく、有名な物なども答え、楽しそうに探求する姿が見られた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

子どもたちが興味を持った国は書き出し話を広げていけるようにし、発表に繋げるようにしていく事で、興味関心を広げていくことが出来た。国旗に興味を示したことを講師に伝え、他の文化を知る活動へとどんどん発展していくことが出来た。

【5歳児実施分】

問いを考える：

「アメリカの国旗には何があるかな？」「アメリカ以外の国はどんな国があるかな？」「国旗はどんなものかな？」「どんな国があるかな。」「この国は、何が有名かな。」

探究活動の様子：

日本とアメリカの国旗を見比べ、何が違うのか等を考えられるようにした。講師の先生から聞いた色を思い出しながら、アメリカの国旗の色塗りを楽しみ、アメリカの国旗に星が何個あるのか等、子ども達同士で数える姿もあった。完成した国旗を他児や保育者に嬉しそうに見せ、発表していた。「アメリカ以外の国はどんな国があるかな？」「国旗はどんなものかな？」と問いかけると、チームに分かれて、様々な国がある事を調べ、国旗の図鑑や地球儀を見て学びを深め始めた。

「どんな国があるかな。」「この国は、何が有名かな。」と問いかけると、カードを見て「〇〇だ。」などと知っている国は答え、知らない国は図鑑や絵本を用いて、グループごとに調べ始めていた。遊びの中で、国旗のカルタなどを使い、いろいろな国に触れることが増えてきた。国旗のデザインの紙を用いて、オリジナル国旗を作成した。個人とクラス全体とで個人で２種類作成した。日本に住んでいることを意識して、富士山を描く子どももいた。こどもたちが国旗を描きながら「こんな国あるかな。」と興味を示し、「調べてみよう。」と次の活動に繋がっていった。国旗図鑑や国旗の絵本をよく見ていた。

国旗を用いたゲームを行うと、今まで学んだ国の名前や国旗、国の有名な物を楽しく答える姿が見られた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

子どもたちが興味を持った国は書き出し、興味を深めていけるようにし、話し合いや発表に繋げた。遊びの中で、国旗のカルタなどを使い、いろいろな国に触れることが出来るようにしていき、発展していくことが大切だと感じた。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都港区芝２丁目１２－１６
園名	アスク芝公園保育園

１．活動のテーマ

<テーマ>

様々な楽器とオノマトペ

<テーマの設定理由>

発表会の合奏に向けて、様々な楽器に触れていくため、楽器の音が出る仕組みを知り合奏の楽しさを深めていきたいため。また、身近な音に耳を傾けながら、様々な音への興味関心を伸ばしていくことをねらいとしている。

２．活動スケジュール

11 月から 3 月まで行い、月に 1 回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と音楽講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする

11 月：「オノマトペ」ってなんだろう？

12 月：「どんなオノマトペが入っているかな」

1 月：振動することで音が鳴る？

2 月～3 月：楽器の仲間分けをしよう、自分の好きな楽器を作ってみよう

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

11 月： オノマトペ絵本、カード、オノマトペカルタ⇒室内や散歩先でオノマトペ探しを行えるように環境を設定した。

12 月：オノマトペ絵本、ペットボトル、割り箸、新聞紙⇒身近にあるものを振ったり、叩いたりし、音が鳴るものを考えた

1 月：トライアングル、エナジーチャイム⇒振動することで音が鳴るということが分かりやすいよう伝え、高い音・低い音が鳴る仕組みについても考えられるように設定した。

2 月： 太鼓、仲間集め表、学館の図鑑 NEO（音楽）⇒楽器の仲間集めを行い、様々な楽器を知った。

３月：紙皿、テープ、ビーズ、カプセル、キャップ、ダンボール、輪ゴム⇒好きに楽器製作を行えるように環境を設定した。

４．探究活動の実践

【3 歳児実施分】

問いを考える：「『オノマトペ』ってなんだろう？」、「どんなオノマトペが入っているかな」「エナジーチャイムの音の違いはどうなっているかな？」「喉に手を当てるとどうなったかな？振動することで音が鳴るかな？」「この楽器は 4 種類のどれに当てはまるかな？」「自分の好きな楽器を作ってみよう」

探究活動の様子：

「どんな音が出てくるかな？」と問いかけて、オノマトペを用いて、音への興味関心を引き出していった。室内や戸外活動を通してのオノマトペ探しを楽しむ姿が見られた。お散歩中にバイクや犬の鳴き声が聞こえ、楽しそうにしていた。

そこから、「カエルの歌」などの童謡の中にどのようなオノマトペが入っているか等を考えた上で、どうやったらその音に近い音を出すことが出来るか考えていった。割りばしを使ったり、新聞紙を使ったりしながら、自分達で音を出す事へと興味関心を移していった。音を鳴らすにはどうすれば良いのかとグループごとに考える姿が見られた。

エナジーチャイムを通して音は振動して伝わることを知り、喉に手を当てると声が振動している事が分かり驚いている子どもが多くいた。音は振動して伝わることが分かり様々なものを鳴らして確かめる子どもが多くいた。高い低いなど音の違いに気付く姿もあり、音への興味は更に深まっていった。

太鼓などの楽器を使い、感銘楽器・幕名楽器・もくめい楽器・題名楽器の中から自分の選んだ楽器はどこに当てはまるか考えながら答えていった。楽器図鑑を使い、いろいろな楽器への知識を深めた上で、自分で廃材等を組み合わせながら、好きな楽器を作成していった。音をどのように出すか考えながら作る姿が見られた。最後に、自分達で作った楽器で演奏会をして発表をした。

ふりかえり（保育士の気づき）：

オノマトペについて、一人ずつ聞き取りを行い、そこからグループごとに話しあうことで、他のオノマトペを知る事が出来ていると感じた。戸外活動先でも探していくことで、いろんな場所にオノマトペが広がっていることに子ども達自身が関心を持っている姿を見る事が出来た。

新聞紙からも音が鳴ることを知り、破く、丸める、落とすなど使い方で音の違いが分かり、楽しんでいる姿を見て、一つの素材からの発展を子ども達は楽しんでいるように感じた。

振動から音の仕組みを知り、そこから楽器作りを行うことで、子ども達の興味関心や活動を深められそうだと感じた。

【4歳児実施分】

問いを考える：「『オノマトペ』ってなんだろう？」、「どんなオノマトペが入っているかな」「重ねたりふったりするとどんな音が鳴るかな」「エナジーチャイムを使って鉄の部分に触れながら叩くと音は響くかな？響かないかな？」「喉に手を当てるとどうなったかな？振動することで音が鳴るかな？」「この楽器は4種類のどれに当てはまるかな？」「自分の好きな楽器を作ってみよう」

探究活動の様子：

講師の先生の絵本の読み聞かせを見て、「ザーザー」「ピカピカ」「ツンツン」など様々なオノマトペに触れた。絵本を通して日常には様々な音が隠れていることが分かり、興味を示していた。その後、オノマトペのカードを使ってカルタをした。その後、普段は気にしていない「ザーザー」といった水の音や、「ブーブー」などの車の音に注意して、楽しみ、グループ内で話し合う姿が見られた。

身近にあるもので音が鳴るものを考えた。割り箸とペットボトルで音がなることを知り、興味を示していた。また、ペットボトルの大きさや形によって音が違うことに気付く姿も見られた。その後、「カエルのがっしょう」の歌に合わせて自分なりに音を鳴らすことを楽しんだ。保育室の中にある物で音がなる物を探した。日常に様々な音が隠れていることがわかり、こんな音がする！と嬉しそうに保育者に教えることが増えた。

エナジーチャイムに触れてみた。触れた後、声を出すときにも喉が振動していることを知り、高い声や低い声など声の出し方を変えることで喉の振動の違いにも気付く姿があった。

楽器の仲間分けを行った。感銘楽器、幕名楽器、もくめい楽器、題名楽器の中から自分の選んだ楽器はどこに当てはまるかグループごとに考えながら答える姿があった。そこから楽器作りに発展した。作りたい楽器を身近な物を用いて作る様子があった。作った楽器をみんなに発表したり音を鳴らすことを楽しんだりしながら遊ぶことを提案していた。そこから自分で作った楽器を使って演奏会をした。

ふりかえり（保育士の気づき）：

オノマトペについて、一人ずつ聞き取りを行い、そこからグループごとに話しあうことで、他のオノマトペを知る事が出来ていると感じた。戸外活動先でも探していくことで、いろんな場所にオノマトペが広がっていることに子ども達自身が関心を持っている姿を見る事が出来た。

音が振動からきていることを知り、目に見えるものを鳴らしている時には振動は起きているのか新たな疑問がでたため子どもたちと一緒に試してみることにした。実際に見ることで子ども達の興味関心は高まっていった。色々な楽器の種類があることを知り、次は自分の興味がある楽器や作ってみたい楽器を作るよう、声掛けをしたところ、実際に鳴らしたい音をどうやって作るか楽しむ姿が見られ、仕組みを知らせ、そこから実際に試してみることの大切さを感じた。

【5歳児実施分】

問いを考える：「『オノマトペ』ってなんだろう？」、「どんなオノマトペが入っているかな」「重ねたりふったりするとどんな音が鳴るかな」「エナジーチャイムを使って鉄の部分に触れながら叩くと音は響くかな？響かないかな？」「喉に手を当てるとどうなったかな？振動することで音が鳴るかな？」「この楽器は4種類のどれに当てはまるかな？」「自分の好きな楽器を作ってみよう」

探究活動の様子：

講師の先生の絵本の読み聞かせを見て、「ザーザー」「ピカピカ」「ツンツン」など様々なオノマトペに触れた。絵本を通して日常には様々な音が隠れていることが分かり、興味を示していた。オノマトペカルタを使って、オノマトペに慣れ親しんだ。

散歩先で普段は気にしていない風の音等も強弱によって変わるのではないかとグループ内で子ども達同士で話し合っていた。

身近にあるもので音が鳴るものを考えた。割り箸とペットボトルで音がなることを知り、興味を示していた。また、ペットボトルの大きさや形によって音が違うことに気付く姿も見られた。保育室の中にある物で音がなる物を探すことに夢中になり、グループごとに話し合っていた。

エナジーチャイムに触れ、声を出すときにも喉が振動していることを知り、高い声や低い声など声の出し方を変えることで喉の振動の違いにも気付く姿があった。音が振動からきていることを知り、目に見えるものを鳴らしている時には振動は起きているのか新たな疑問がでたため試してみると、更に音の違いを見極めることを楽しんでいた。

楽器の仲間分けを行った。感銘楽器、幕名楽器、もくめい楽器、題名楽器の中から自分の選んだ楽器はどこに当てはまるかグループごとに考えながら答える姿があった。そこから子ども達で話し合い、楽器作りを行ってみることになった。どの素材を使ったら、自分が鳴らしたい音が鳴るのか考え、集中して取り組んでいた。迷ったり、困ったりした際には、同じグループ内で話し合いをした。そこから自分で作った楽器を使って演奏会をした。

ふりかえり（保育士の気づき）：

オノマトペについて、グループごとに話しあうことで、自分で気づいたオノマトペ以外のものも知る事が出来ていると感じた。戸外活動先でも探していくことで、音の強弱にも気付く事が出来ており、活動の発展性を感じた。

音が振動からきていることを知り、目に見えるものを鳴らしている時には振動は起きているのか新たな疑問がでたため子どもたちと一緒に試してみることにした。実際に見ることで子ども達の興味関心は高まっていった。楽器図鑑を通して色々な楽器の種類があることを知り、どうやったら同じような音が鳴る楽器を作る事が出来るのか投げ掛けることで、子ども達自身が仕組みを知ろうとし、そこから実際に試して作っていくことが出来た。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都港区芝２丁目 12-16
園名	アスク芝公園保育園

１．活動のテーマ

<テーマ>

運動

<テーマの設定理由>

全員が同じ目標を目指すわけではなく、それぞれが自分の「出来る」を知り、自分自身で伸ばしていこうという目標を決め、可能性を伸ばしていく。運動会では自分の目標を決めて運動に取り組み、自信をもって発表を行っていけるようにしていく為。

２．活動スケジュール

11 月から３月まで行い、月に１回体操の講師を招致し身体の動かし方についてこどもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てるような助言をもらったりした。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と体操講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする

11 月：「自分の跳ぶ、引く、走る力がどのくらいあるか知っているかな。」
12 月：「どうやったら記録が伸びるかな」
1 月：「自分で考えた動きで身体を動かしたり、ゲームをしたりしてみよう」
2 月：「自分の身体能力を計測してみよう」
3 月：「新しい動きで更に身体能力を伸ばしていこう」

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

記録用紙、タイマー、鉄棒、逆上がり板、マット、ラダー、たのしいジャンプ（トランポリン）

備品を用いて跳ぶ、引く、走る等の力を計測した。

４．探究活動の実践

【3 歳児実施分】

問いを考える：

「自分の跳ぶ、引く、走る力がどのくらいあるか知っているかな。」「どんな動物が跳ぶ、引く、走ることができるかな。」「動物や生き物の動きはどんなものがあるかな」「力測定をやってみて、難しかったことをは何かな？」

探究活動の様子：

記録用紙を用い、一人ずつ計測を行って、自分の跳ぶ、引く、走る力がどのくらいあるのかを把握した。その後、グループに分かれて跳ぶ、走る、引く力がある動物がいるか、グループに分かれて考えていった。「ジャンプするのはうさぎ！」「チーターは走るのが速いよ！」等と意見が出ていた。図鑑の写真を見る事でイメージが沸き子ども同士で意見を出していた。

走る、ジャンプ、引くチームに分かれそれぞれのチームが考えた動物と動きをみんなで真似をした。グループでサルの動きは何がいいか子どもたちで意見を出し合っていた。実際に片手で捕まってみると難しく、両手で掴む事もいいことにしようと話し合い決めていた。その後、どのように動物が動いているか一人ひとりが考えながら自由に遊んだ。身体の動きを考え動いていた。

「動物や生き物の動きはどんなものがあるかな」等、考えたことを思い出せる声掛けを行った。一人ひとり考えた動きや生き物を表現できるような時間を作ったり、他児が表現する姿を見たりする時間を作った。「以前みんなで考えた動物以外にどのような生き物がいるかな。お家で考えたことや図鑑で考えたことを教えてね」と声を掛け、自分たちで調べたことを発表できるような環境を整えた。また、グループごとに話し合う時間を作った。

子ども達自身で調べた動物の動きを元に、記録測定を行った。前回の記録を超えることができる様に集中して取り組んでいた。たくさんぶら下がることが難しかった、速く走ることが難しかったなどの意見があった。

ふりかえり（保育士の気づき）：

それぞれの動きから、どんな動物の動きがその動きに特化しているかを考え、実際に行ってみることで、子ども達のイメージが沸く姿が見られた。動物の動きを真似て、どう動く事で運動能力が伸びるか考えていくことが出来ていた。以前遊んだことをもとに、様々な動物になりきって遊ぶことが続き、グループでの話し合いも発展していっていた。図鑑を見て調べる時間が増えた。様々な動物に興味を持ち、動きだけでなく、習性や体の色など知ることができた。

記録を再度測定すると、前回の記録より良くなっていると喜んでいる様子であった。自分の動きを振り返ることで苦戦したことが良く分かっていたようである

【4 歳児実施分】

問いを考える：

「自分の跳ぶ、引く、走る力がどのくらいあるか知っているかな。」「自分の跳ぶ、引く、走る力についてどのような遊びをするといいかな。」「新しい動きをすることで記録はどうなるかな。」「どのような遊びがあるのかこの遊びにはどこが強くなるかな」「みんなで考えていた遊びの他にもどのような遊びがあるのかバランスチームとジャンプチームに分かれて考えて実践してみよう」「記録は伸びたかな。みんなにはどんな力があるのかな。」

探究活動の様子：

記録用紙を用いて、一人ずつ計測を行い、バランス力・走る力・跳躍力がどのくらいあるのかを把握した。どのような遊びや練習をしたら記録が伸びるのかグループごとに考え発表した。後日、再度記録を測定。どのような遊びや練習をしたから記録が伸びたのかも考える事が出来た。

一か月後、前回の測定をもとに動いてみた。記録が伸びているところもあれは、前回より縮んでいるところもあり楽しんでいた。どうやったら更に記録が伸びるのか考えていった。前回の記録と比べ記録の伸びていた時は喜び減っていた時には気にする様子があった。

２グループに分かれ、他児が考えてきた遊びを見る時間を作ったりしながら、活動を展開すると、それぞれ新しい発見をする事が出来ていた。ハードルでは両足で跳んだり、綱渡りでは縄の上から落ちないようにしたりして楽しむ姿があった。考えた動きやルールを講師に伝え共有し興味を広げていた。

前回の測定をもとに、2 回目を測定した。記録を見て、「やった、〇〇まで行った。」と喜んでいた。1 回目と 2 回目の記録を見比べ記録がどうなったかをグループごとに保育士や講師と一緒に考え、自己分析を行い、探求心を深めていく事が出来た。

ふりかえり（保育士の気づき）：

どのような遊びや練習をしたら記録が伸びるのかをグループに分かれて考えることで、子ども達自身が自分の身体能力に興味を示す姿が見られた。更に、一人ひとりの記録を測ったことで次の意欲に向けて意見を出していた。前回の記録と比べ記録の伸びていた時は喜び減っていた時には気にする様子が見られた為、子ども達の伸びたところに着目し自分のできることを感じ自信に繋げられるように声掛けを行った。友だちと意見を出し合いながら考えたり体を動かしたりすることが大切だと感じた。「バランス力・跳ぶ力」について、測定をして考えた遊びがどう繋がっているのか考えていくことが出来た。

【5歳児実施分】

問いを考える：

「自分の跳ぶ、引く、走る力がどのくらいあるか知っているかな。」「どのような遊びがあるかな。」「この遊びをしたら、どうなるかな。」「新しい動きをすることで記録はどうなるかな。」「どのような遊びがあるのかこの遊びにはどこが強くなるかな」「どういう遊びをしたら記録が伸びるかな。」「記録は伸びたかな。みんなにはどんな力があるのかな。」

探究活動の様子：

講師の記録用紙を元に一人ずつ計測を行い、バランス力・走る力・跳躍力がどのくらいあるのかを把握した。記録をもとに、どういう遊びをしたら自分たちの身体能力が伸びていくのかグループごとに話し合いを行っていった。どのようにしたからこうなったのかと振り返る事が出来ていた。

一か月後に再度測定。記録を見て、「やった、前よりも出来た」などと喜んでいた。「次は〇〇までいきたい」と等、期待を持つ姿が見られた。どのような遊びをしたら記録が良くなるか、グループごとに講師や保育士と一緒に考えた。その遊びを行った中で、子どもたちが自分の「出来る」に気付く事が出来るようになってきた。記録が伸びたところと減ったところを意識するようになった。

自分の記録を見ながら、今度の測定に向けてどうするのか講師と一緒に考えた。グループごとに、それぞれの力について遊びを考えていた。なぜこの遊びで記録が増えるのか考え答えていた。

小学校の進級に向けて、自分達で向上心を抱き、更に記録を伸ばそうと身体の動かし方を工夫する姿がよく見られた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

一人ひとりの記録を測ったことで次の測定に向けて意欲的に意見を出していた。

遊びの中で、子どもたちが自分の「出来る」に気付くことが出来るようにする働きかけが大切だと感じた。子どもたちに対して、「この記録伸びたね。」などと声を掛け、自分の「出来る」を感じることが出来るよう工夫した。